





誰も皆を信じられず  
誰もがウソをついている  
真実はみな闇の中。

…ねえ、あなたは  
食べてもいい人類？

◆◆ 殺された男と取引のあった土卓道具屋の証言 ◆◆

僕は森近霖之助。里の外れの道具屋、香霖堂の店主をしている。

……なにやら巷では怪しげな店だと噂されているようだが、少々誤解があるね。僕は自分の店を人気店にするつもりはない。僕にしかできない商売をしているだけだ。

あの立地にしても、僕の立場に相応しくあるべきと思つたからに過ぎない。儲けを出さないならもつと人の賑わう場所に出すべきだろう。もつとも、そうなると仕入れが面倒になるわけだが……。なんにせよ、まっとうな商売を心がけているつもりだ。

さて、そんな一介の商人に随分と物々しい取り調べだが……。なるほど、確かに状況だけ見れば僕が事件の第一容疑者ということになるんだろうな。

だが、僕にも弁解の余地くらいはあるようだね。本気で僕を犯人にしたいなら、こんなにまだるっこしいことはせずに即、退治するくらいの事は造作もないだろう。君達がそれをしていないということは、言わずもがなだ。

では、あの日の経緯を詳しく話すでしょうか。あの日、僕は商売の話で村塚清十郎氏に邸宅へと招かれていた。村塚氏とは以前から取引があつてね。その縁で呼ばれたことになる。さほど親しかつたわけではないよ。霧雨の親父さんとの縁でね、彼が何度か僕の店に顔を出したという程度だ。

村塚氏の話では、是非僕に買い取って欲しいものがあるという事だった。詳しくは会って話したいという事だったので、詳細は僕にもわからない。それを知る前に、彼は家族ともども皆殺しにされてしまったわけだからね。

だが、そうだね、確かに内密にしておきたい事だったのかもしれないな。

見ての通り、僕は半分妖怪だ。そして実態はどうあれ怪しげな商売をしていると思われる。だから、由来の不確かな品物でも引き取ることができると思われてもおかしくない。そういう話を持ちかけられることは、確かにこれまでもあった。

待ち合わせは当日の昼前。僕が里の邸宅に着いたのは十一時前だったかな。少し早すぎたとは思ったが、玄関には鍵が掛かっている。呼び鈴を鳴らしても反応はなかった。まあ、正確に時刻を決めていた訳ではないし、留守にでもしているのかと思って、しばらく表で時間を潰すことにしたのさ。

……そうだな、三十分ほどは待たたろう。それでも誰も戻ってくる様子はない。いい加減、妙だと思つて、勝手口のほうに回らせてもらったよ。不用心だなと思わなかったのかつて？ 勿論だ。しかし、いくら僕が暇だと思われているとしても、態々呼び出しておいで、何も言わずにただ、待たせ続けるというのは流石に失礼だろう。

そうしたら、勝手口の前に書置きと荷物があつてね。訳あつて外出せねばならなかったので、荷物は引き取ってほしい、代金の話はあとでしたいと、……ああ。村塚氏の筆跡だつ

たろうと思う。

しかし、僕はあそこに商売の話をしに行つたのであつて、不用品の回収に行つたわけではない。そもそも買い取るかどうかは品物を見てから決めるつもりだったんだ。それを詳しい話もなく、持つて帰れと言われても困るんだ。

どうも誤解があるようだが、僕の店がガラクタばかり扱つていると思われているのは心外だな。きちんと商品は厳選しているよ。

なんにせよ、村塚氏が不在であるのならばどうしようもないわけだ。諦めて帰るしかないだろう。荷物もそのままさ。もう一度出直すのは面倒だったけれど、これも仕方がない。

店に戻つたのは十二時半ごろだ。昼食をどうしようか、出直すにも面倒だしどこかで済ませてくれればよかつたと考えたから覚えている。

……なるほど。となると、僕が引き返した頃にはもう村塚氏は殺されていたということになるな。……いや、特に変わった様子はなかつたように思う。

勿論、現場に触れたりはしていない。家の中に入っていないのだから、当然だ。

勝手口の鍵かい？ さあ、どうだろう。分からないな。呼び鈴はないからノックはしたけれど、その程度だ。施錠されているかは確かめていない。済まないね、役に立たなくて。

大体こんなところだが……やはり疑われてしまうのだろうね。いや、謝ることはない。君達はそれが仕事だろう。自警団の里での立場は僕も分かっているさ。それに、こういう商売

をしているんだ、疑われるのには慣れている。

ああ、ところで、一つ質問をいいかな。僕は村塚氏——清十郎氏とは個人的な付き合いしかないので詳しくは知らないんだが、彼は何人家族だったんだい？

いや、新聞を読んで少し気になっただけね。

村塚氏には確か、妻と一人娘がいるだけだったと思うんだが、被害現場に残っていた右腕は、全部で四本あったんだらう？

◆◆ 第一発見者の里の金貸しの証言 ◆◆

ほうほう。儂にまで聞き込みとは、捜査ご苦労様じゃなあ。

いかにも儂が二ツ岩じゃ。里で金貸しの真似事をさせてもらつておるよ。

ふむ。腹芸はやめろと言う顔じゃのう。よかろう（と、女は身を揺すつて耳と尻尾を露わにする）。ご明察の通り、儂は化け狸じゃ。なに、人里ではきちんと人間として振舞つておるよ。件の決まりとやらを侵すようなへまはしておらんから安心せい。

くくく。妖怪が金貸しなど妙だと言いたげじゃなあ。なあに、そこいらのやくざ連中よりはいたつて健全に経営しておる。なんならお主にも安く用立ててやるぞい。

さあて。状況は概ね分かつておるつもりじゃが、つまるところ儂が第一発見者にして、容疑者の一人、ということになるんじゃないか？ 隠さずとも良い。別に逃げたりはせんよ。

じゃがのう、儂にやましいところはないぞい。かの一家の惨殺現場に遭遇し、善良な一市民として通報したまでじゃからな。里の中での人殺しは一大事じゃからのう。見て見ぬ振りなどできるものか。……かつつか。なんじゃその顔は。

お主らも木石ではあるまい。既に調べておるんじゃないか？ その通り、殺された男は儂に金を借りておつた。証文はこれ、この通りよ。

どうじゃ、随分な金額じゃろう？ 道楽につき込むにしても限度というものがあろうにな。

それほど必死だったということかも知れんが、儂に泣き付くということは、表沙汰にならん方法で金が欲しいという事に他ならん。まっとうな理由でないのは確かじゃな。

しかしそれは儂にはどうでも良い話じゃ。貸した分が耳を揃えて帰ってくれば構いやせんぞ。巷では利子は取らんなどと言われているが、儂も慈善事業で金を配っておるわけではないからう。

つまり早い話が、あの日儂は返済期限が迫っていた借金の督促に向かったところで、現場に鉢合わせたわけじゃな。……ふむ、時刻か。丁度、正午の鐘が鳴ったところじゃったかのう。この通り、商売柄時間には気を使っておるよ（と、懐から金時計を示して見せる）。

あの場で話した通りじゃが、いくら呼んでも玄関には誰も出てこず、勝手口には鍵が掛かっておらんかったからのう。そこで不作法は承知で中にながらせてもらった。

あとはその御仁もご存じのとおり、一家揃つての惨殺現場に遭遇となるわけじゃな。詳しく見るまでもなく、明らかに只事ではなかったからのう。人を呼んで官憲に知らせたわけじゃ。いやあ、他人事ながら惨い話じゃ。里の大店連中がこぞつて躍起になる理由も分かるうというもんじゃな。

……それにしても、くくく。

なに、ちと可笑しくてのう。儂が第一発見者とはなあ。どう考えても、儂より先に現場を見た者が居るじやろうに。

ほれ、あの里の外れで古道具屋をしておる偏屈な男よ。

どうもあちこちの連中、見てくれが人間と同じだからと安堵しておるようじゃが、あれも半分は妖怪じゃ。何の血が半分混じっておるかも知らんで、暢気なものよなあ。そうやって儂を警戒するのであれば、あの男に気を許すというのが少々滑稽なだけじゃよ。

どうせ朴念仁を装って知らぬ存せぬを決め込んでおるんじゃないやろうが、こゝろ見えても商売柄、多少は鼻が利いてのう。あやつが殺された一家と揉めて居つたのは有名じゃやろう。

ふん、惚けるな。霧雨の店の娘じゃよ。お主ら、あの男が年甲斐もなくあの娘に懸想しておつたのを知らんとは言わせんぞ。

……のう、面白いことを教えてやろう。あの男とはあの日、ちようど通りですれ違つた。人間には氣づかん程度じゃやろうが、血の匂いをさせておつたぞ。何もしておらんとするのは、まあ嘘じゃやろうなあ。

かかか。おうおう、これは余計なことじゃつたかのう。まあ、氣にせんでくれ。

あん？ なんじゃと？ 勝手口の荷物？

いや、そんなものは見当たらんかつたぞ。お主の言っておる荷物というのは、懐に入るようなものではなからう？ 両手に引きずっておつたら、子供でも氣づくわい。

……ふむ？ まあ良い。儂を疑うというなら構わんが、調べたところで無い袖は振れんぞ。好きにするがいい。なんなら、上から下まで裸にしてみるかのう？

◆◆ 現場付近で確保された火車の証言 ◆◆

あいたた……。分かった、わかったつてば。逃げやしないよ。やだねえ、もう、ちよつとしたお茶目じゃないか、本気にしないでおくれつてば。

いやあ、お姉さんにや敵わないねえ……。あたいを捕まえたつてなーんにも出てきやしないつてのにさ。……。あいてて。

まったく、ひどい目に遭つたよ、もう。

ふう……。そりゃあ、まあね？ 勝手に死体を運ぼうとしたのは悪かつたとは思つてるんだよ？ けどさあ、結局未遂だつてのに、問答無用でお札まみれにされて、乱暴に檻に突っ込まれるつてのはさすがにねえ。一番いい死体も取り損ねるし、踏んだり蹴つたりだ。

ん、ああ、自己紹介が遅れたね。あたいは火焰猫燐。地底で暮らしてる火車さ。知つてるかい、火車。お姉さんも良ければお燐つて呼んでくれると嬉しいねえ。

……。いやあ、……。まあね、知らなかつたわけじゃないんだよ？ 地上に出てくるのをお目こぼししてもらおう代わりに、騒ぎを起こすなつてのはきつく言われてるけどさあ……。

うん、そこところは、申し訳ないとは思つてるんだ。嘘じゃない、本当だよ。ただねえお姉さん、あんなにいい死体を見せられたら、あたいだつてちよいと悪い気が起こるのは仕方ないじゃないか。わかるだろ？

……駄目かい？ あ、そう。うーん。参ったなあ。

ん？ あたいかい？ いやあ、普段からこんなもんだよ。ちよつと退屈しのぎに散歩して  
るだけさ。地上のおひさままでやつは本当に気持ちがいいからねえ。お空っていう、あたい  
の友達がいるんだけどさ、そいつがずうつと地上に出たがってた気持ちもわかるよ。いやあ、  
本当にあの時は大変でさあ……ああもう、お姉さんったら、そんな怖い顔で睨まないでおく  
れよ。わかった、わかったって、正直に言うからさ、正直に。ね？

これまでも、何度か地上で火車の仕事をしたことはあるよ。ね？ ほら、どうだい？ 正  
直に言ったよ？ まあ、だからさ、普段もたまたま都合よく、どこかで人が野垂れ死んでた  
ら持つて帰っちまおうってくらいは考えてるってことさ。

ただ、あたいは地上を気に入ってるんだ。ここはとても綺麗で、おひさまがあつたかくて、  
いいところさ。単に散歩してるのが楽しいってのもあるんだよ。

だから、あくまで死体はついでさ、ついで。

それで、あの日の事かい？ ちよつと待つておくれよ、今思い出すから。

……ええつと……ああ、そうだ。確か、お昼の少し前だったねえ。お腹が減つてたから何  
となく覚えてるよ。ちようどあの家はおやつをくれる所だったからさ、猫の格好でよくお相  
伴に預かつてたんだ。

そうそう。いつもみたいに裏手のところで待つてただけど、あの日は毎回詰め掛けてる

野良猫連中が全然見当たらず、妙だなんて思ってたんだ。

そしたら、急に中であの気配だろう？ いやあ驚いたのなんのって。

それで、すごく美味そうな……こほん。強い血の臭いがしてきてさ。こりや只事じゃないって、中に入ったのさ。ん？ 鍵？ やだねえ、忘れてもらっちゃ困るなあお姉さん。あたいは猫だからね。縁の下でも天袋でも、その気になりや簡単さ。

そうしたら、部屋じゆう血まみれの中で、酷い格好で倒れてる奴がさ……

……は？ ちょっと待ちなよ（火車は不機嫌そうに目を細める）。

いくらお姉さんでも、そいつは聞き捨てならないねえ。そりやあ、あたいが妖怪だから犯人だって疑われるのは分かるけどさ。さとりに様に迷惑掛かるのがわかって、わざわざ殺してまで死体を作るもんか。里の中は殺し合いはご法度なんだろう？ あたいが猫頭だからって、それがわからないと思われるのは業腹だねえ。

自分で殺すんだったら、いくらなんでももう少し上手くやるさ。……いや、うん。待ちなつて。いまのは冗談。冗談だつてば。たとえばの話だよ？

……はあ、わかつたよ。結局は最初に怪しまれちまつたあたいが悪いんだよねえ。できるだけ早く離しておくれよ。あの鉄籠はやつぱり居心地が悪いからさあ。それに、あまり長く留守にすると、さとり様が心配するし。

それにねえお姉さん。あそこにやあた以外にも怪しいやつはいっぱいたじゃないか。

化け狸やら、妖怪もどきやら。特にあいつだよ、あいつ。

……ねえ？ そんな顔して、分かっているんだろ？ 人が悪いねえ、お姉さんもさ。

……ああ、はいはい。分かっているよ。大人しくしてらつて。

ねえ、そう言えばさお姉さん。あそこでたくさん死んでたつていうけど、あの子は助かったのかい？ ほら、あの金髪の子だよ。

……何つて、勝手口のところに転がってたあの馬鹿でかい鞆さ。

あれ？ 変だな。気付いてなかったのかい？

あの中に入つてたの、生きてる人間だったじゃないか。

◆◆現場保全に協力した寺子屋の教師の証言◆◆

ふう……。ああ、すまない。少し寝不足だな。

なに、形式の上とは言え、どうにもこれは落ち着かないなあと思っただけだ。やましいことがあるわけではないが、こうして面と向かって事情を聴かれるというのは案外、居心地の悪いものなんだな。

今更名乗るのも妙だが、上白沢慧音だ。里では寺子屋の教師をしている。

既に詳細は報告されているとは思うが、型通り説明させてもらおう。あの日、自警団からの知らせがあったのは、正午の鐘が鳴ってすぐだったな。いつもは寺子屋の控室で、教師一同が揃って昼食をとるんだが、あの日は少し家に用事があつてな、一度戻ろうとしていた所だった。

そこに自警団の皆が駆け込んできたわけだ。全員血相を変えていたので何事かと驚いたな。事件の概要はその場で聞かされた。彼らが私のところに来たのは、ただの事件とは思えないという理由で、現場の保全に協力をして欲しいという要請のためだった。もちろん断る理由はない。そのまま現場に向かうことになった。

現場に着いたのは……十二時十五分くらいだろうか。既にあたりは騒然としていて、野次馬が大勢詰め掛けていたな。物見高いのは結構だが、ああいう時に混乱が防げないのは今後

の課題かもしれないな……。

私はそのまま現場に入ったわけだが……。実に、酷いものだったよ。

玄関をこじ開けて戸を潜る前から異様な雰囲気は感じられた。血の臭いも外まで漏れていくくらいだ。あれでは野次馬も近づくのは躊躇われただろう。

中の様子は……。あまり、口にしたものではないな。

正直に言えば、昼食をとる前で良かったと思つたほどだ。私も里の守護役を引き受けてそれなりに長い。これまでもいくつか、人間が襲われた現場というのには立ち会つたが、そこまで悲惨な状況というのはあまり覚えがないな。

ともあれ、自警団と協力して現場の保全と、記録を行つた。

現場は応接間。犠牲者は、部屋のあちこちに、ばらばらになつて散らばつていた。血の状況などから、いずれも室内にいたところを襲われたのだろう。見た限りでは何人が死んでいるのかもはっきりとは分からず、検分は右手の数で判断したことになる。成人男性と思われるものがひとつ、女性のものと思われるのがひとつ。あとは……。子供の腕がふたつだ。

白昼に堂々と、里の中であも大勢の犠牲者が出るとは……。前代未聞と言うしかないな。痛ましい限りだ。

……。ああ、森近氏とは入れ違いだ。彼とは会っていない。通報者の二ツ岩氏とは少し話した。随分と慌てているようだったが……。その後、火車が隠れているのが分かつて大騒ぎ

だ。後のことはそちらも知つての通りだろう。

勝手口は施錠されていたと思う。ふむ。そうすると誰かが鍵をかけたのだろうか？

荷物？ さあ、私は直接は見えないが……。なにか、重要なものが残されていたのか？

……それにしても、悔しいものだ。私をもっと早くに気づけていれば、完全に防ぐことはできずとも、何かの手立てが打てたかもしれないのだが……。

ん？ 生存者？ 何の話だ？

それは、私と被害者と面識がなかったということか？ いや、特別親しかったということはないな。同じ里で暮らしているんだ、寄り合いで顔を合わせることもあつたし、立ち話程度はするが、それくらいだ。ご子息も病気がちで滅多に家は出られないという話で、寺子屋には通つていなかったからな。

ああ、しかし……霧雨のご当主も不幸なことだな。もう結納は済んでいたんだろう？ 折角の一人娘の結婚式を前に、こんなことになるとは……。

◆◆ 捜査協力を仰いだ里の有力者の発言記録 ◆◆

(捜査員の前で一礼) こんなに遅くまでご苦労様です。後でお夜食でも運ばせましょう。……公正な捜査の妨げになる？ 買収のつもりなどありませんが、まあいいでしょう。

一応、発言記録は残るのでしたっけ。私は**【検閲削除】****【検閲削除】**の立場にあります。

ええ。配慮いただけるのは嬉しいですが、別に深窓の令嬢を気取るつもりもありませんので。あんなものを書いている手前、恨まれるのは慣れていきますし、殺人事件に関わった程度のことと醜聞になるわけでもありませんし。はあ、匿名で？ まあ、そちらがそれで良いというのなら構いませんが。

ご心配なく。これでも人生経験は豊富なほうですから。もつと悲惨な事件に立ち会ったこともありますよ。ええ。きちんと覚えていきます。そういう体質なもので。

はい。その日は丁度、**【検閲削除】**……友人と一緒に街を歩いていました。……ええ、まあ、ちよつと相談したいことがあるという事でしたので。内容は、まあ、乙女の秘密ということですね。ええ、これは事件とは関係ありませんのでお構いなく。

まあ、その相談が終わった後、少し早めに食堂に入ってお昼をとりました。店を出たのは十二時を少し過ぎたときでしたね。そこで自警団から報せを受け取りました。

ええ、私の立场上、そういう話はすぐに耳に入ります。実際に何ができるといふ訳では

ないのですが、過去に似たようなことがあったとすれば、対処法を探るのも容易いということでしょう。そもそも私は妖怪の被害への対処のために存在していると言っても過言ではありませんからね。

案内された先が、村塚氏の邸宅だったのは驚きました。先日もお会いしたばかりだったので。まさかこんな形で再会するとは思ってもありませんでした。

(溜息) ええ。酷い現場でした。できることなら覚えておきたくはないですね。

そのまま現場の検分にも立ち会いました。玄関をこじ開けたのと、勝手口が施錠されていたのは前にお話ししましたね。荷物はまだ見つかっていないのでしたっけ。

——ええ、確かにあの場には、四人分の右手がありました。間違いありません。他の部分はあちこち欠けてしまっていて、はつきりとは区別できなかったんですが。……ふむ？　すると、もう一人現場に巻き込まれた犠牲者がいる、ということになりますね。現場を襲った相手は相当に食欲旺盛なようでしたから、右手以外の全部を食べられた死体があったとしても別段おかしくはないかと思います。

……犯人の心当たりですか？

自警団の皆さんはもうご存知かもしれませんが、現在、里には多数の妖怪が姿を偽って出入りしています。彼らは表向き、里の中では人として振舞うというルールを守っていますが、それをどこまで信用できるかという問題になりますね。

妖怪というのは、どうあつても人間を食い殺すものです。彼らが私達と同じ姿をしているからと言って、そこを見誤つてはならないでしょう。

もつとも、被害の様子を見るに、少々短慮が過ぎるようにも思います。人間として振舞う妖怪は、そうすることのメリツトがあるからそれに従つてゐるわけです。それが理解できる妖怪が、いきなり欲望のままに人間を食らうということがあるのかどうか……。

なんらかの切つ掛けがあつた、ということかもしれませんね。

あるいは、皆さんが、そして私が氣づいていないだけで、里には危険な妖怪が潜み、虎視眈々と機会を狙つてゐるということもあり得ないとは言ひ切れませんが。

……そうですね。……これは、言うべきか迷つていたことなんです。

皆さんは、あの日、現場で何があつたか、覚えていますか？ ……ああ、やはり分からな  
いという顔ですね。どうしたものかしら。

これは、本人から口止めされていたことなんです。慧音先生は、あそこで一度、過去の歴史を喰つています。何を無かつたことにしたのかはまでは分かりませんが——あそこで起きたことが隠蔽されてゐるのは間違いないですよ。

そうですね。この事件、上白沢慧音も信用ならないということですよ。注意を怠らないように。

ええ。私も【**検閲削除**】として、優先すべきことは分かつてゐるつもりですよ。皆さんも  
氣を抜かずことに当たつてください。……何かあれば、また。

◆◆ 里の有力者の友人の証言 ◆◆

あー、あー。こほん。ご、ごめんなさい。ちよつと緊張してて……

はい、**〔検閲削除〕**つて言います。貸本屋の鈴奈庵の。あ、ご存じですか？ いつもご鼻屑にありますがごさいます！ この前の外来本、続刊が入荷したのでまたぜひどうぞ！

あ、えつと。すみません。あの日のことですよ。はい。**〔検閲削除〕**とは一緒にいました。

なにを……つて、一緒に買い物です。もうすぐ**〔検閲削除〕**さんの結婚式だし、着て行く服

とか、プレゼントの相談とか。それで、新しい洋食屋さんができたからお昼でもつて話になつて。ほら、あの路面電車の駅の向かいにある……そうそう、靴屋さんの隣の！ デザートのシャーベットがとつても美味しいんですよ。おススメですよあのお店。

あ、えへへ……。えーつと、証言ですよ。はい。お昼ご飯を食べ終わって、確か十二時くらいだったかなあ。次、どこ行こうかって話してた時に、慌てた様子で男の子が入つてきて……はい。前に**〔検閲削除〕**のお屋敷で会つたことあるんですけど、**〔検閲削除〕**のお家の使用人さんです。なんだかすごく慌てた様子で**〔検閲削除〕**に耳打ちして、そうしたら急に**〔検閲削除〕**が用事が出来たつて先に出ていこうとするから、びっくりして追いかけて……あ、ちゃんとお代は払ってくれてましたから、それはいいんですけど……。

で、そうしたらお店の外で、自警団の人たちがなんだか怖い顔して集まつて……。なん

だか話しかけられる雰囲気じゃなかったから、そのままこっそり後についていきました。はい、**〔検閲削除〕**も自警団の人と一緒でした。

そうしたら、ちやうど風見鶏亭の四つ角の辻の前で、通行止めになってて。

それで、里で殺人事件があつたつて知つたんです。たくさん見物の人たちが詰めかけてました。それから……えへへ、怖いもの見たさつていうんですか？ 中を覗こうとして、こっそりロープの向こうに入ろうとしたんですよ。そしたら、ちやうどその時に、裏路地のほうに歩いてく男の人がいたんです。

はい、銀髪に眼鏡の背の高い。一度会つたことがあります。確か、香霖堂つてお店をやつてる……はい。そうです。その人です。

その人が、隣の女の子の手を引いてて。なんだか気になつたんでもつとよく見ようとしたんですけど、そこで自警団の人に見つかつちやつて。……はい、たつぷりお説教されました。後でお父さんにも叱られて。でも、危ないのは分かつてますけど、気になるに決まつてるじゃないですか。あんなの。

だから、その後はちよつとよく分からないです。**〔検閲削除〕**とも会えなかつたし。え？ それは違いますよ。だつて**〔検閲削除〕**さんつて赤毛じゃないですか。その子、金髪でしたよ？ 赤いリボンが可愛いなあつて思つたからよく覚えてます。見間違えなんかしませんよ。

……うーん。その二人だけだつたと思います。

女の子の様子ですか？ どうだったかなあ。特に嫌がってる様子はなかったと思います。ちらっと横顔が見えただけだからあんまり自信はないんですけど。

でも怖いなあ、里の中でそんなことがあったなんて。やっぱりちよつと、知ってる人が亡くなるのって嫌な感じかなって……。え？ 言ってますでしたっけ？ 亡くなったお家の旦那さん、鈴奈庵の常連さんなんですよ。

ええ、いつもたくさん本を借りてくれて……。あ、でもあんまり本の扱いはよくなかったんですよね。クレームってほどじゃないんですけど、貸本が何冊か返ってこなくて、どうしたんだろうって思ったら、破れて読めなくなっちゃったって説明されて……。すぐたくさん借りてたから、何冊かはそういう事があるかもしれないし、ちゃんと弁償はしてもらってるから、あんまり大声で言えないんですけど。

娘さん、ですか？ ……知らないなあ。あ、でも確かに絵本とか、そういうのも良く借りてました。それだったのかな？ ……へえ。それだったら私と同じくらいか、もうちよつと年下ですね。でも変だなあ。それだったら寺子屋で会ってると思うんだけど……

あ、ところで、こういうところで聞くのは良くないと思うんですけど、**【検閲削除】**さんの結婚式って、正式に日取り決まったんですか？

◆◆森の人形師への聞き込み記録◆◆

どう名乗ればいいのかしら。……そう。わかったわ。

魔法使い、アリス・マーガトロイドよ。里では人形師としてのほうが通りがいいかもしれないけれどね。よければ紅茶でもいかがかしら？ さつきスコーンが焼き上がったところなの（宙を飛ぶ人形が紅茶の準備を始める）。

……はい、召し上がれ。

あら。もつと不機嫌になっていたほうが良かったかしら？

気を使わなくてもいいわ。白昼堂々の大量殺人事件となれば、里に出入りしていた魔法使いが犯人というのが一番合理的なもの。あえて私を無視する方が非論理的じゃないかしら？別に隠す気はないわよ。事件の起きた日の、午前十一時から正午にかけての時間帯は、里の広場で人形劇をしていたわ。これでアリバイになるのかしら？

人形使いなら離れた場所で人殺しくらいできるだろうって顔をしているわね。……そうね。具体的にできることまでは企業秘密だけれど、遠隔で人形を操作して人を殺す程度なら、不可能ではないわ。

ただ……そうね、その気になればあなた達がこの部屋に踏み入れる前に、全員串刺しにするほうがよほど簡単かしら。そうしていない、という事実で、私の言いたいことは分かって

もらえるんじゃない？　これでは十分な誠意にはならないかしらね。

……OK、お互い理性的に話できるのは良いことだね。敬意を表して、私も知っていることは隠さず話すことにするわね。

さて。早速期待を裏切つて申し訳ないけれど、さつきも言つたとおり、私は事件当時、現場から離れた場所にいたの。だから、あの邸宅で起きたことについては、通り一遍の事しか知らないわ。あなた達も今更、噂話を聞かされても困るでしょう？　狐が被害者の家族に化けていたとか、騒霊が主人に恨みを晴らしたとか。

それよりもあなた達が聞きたいのは人形の事よね。

ええ。ご推察の通り、あれは私が作つたものよ。依頼があつたのはもう半年くらい前になるかしら。普段ならそんなものは全部断つているんだけど、稗田の御嬢さんの紹介状まで持つていたから、話を聞くことにしたわ。彼女には一応の恩義もあるし、ね。

依頼内容は、実在の人物を精巧に再現した生き人形を作つて欲しいというものだったわ。

ただ外見だけを再現するのではなく、きちんと動いて、喋つて、受け答えをするようなものを求めているというのよ。確かに普通の人形師には手に余ることだろうし、それなりに興味も湧く内容だった。私の魔法の研究にも役立つものだったし。

費用に糸目は付けないという事だったから、遠慮せず見積もりを出したけれど、引き下がりなかつたわね。人間が生涯働いて稼げる分の、数倍は吹つ掛けたつもりだったけど。

相手の詳しい事情ねえ……一応、依頼者の内情は明かしたくはないけれど、説明するまで帰るつもりはないわよね、あなた達。

居座られるのも勘弁だから解る範囲で答えるわ。あくまで依頼者から聞いた説明になるけれど、ある人が亡くした娘さんの代わりになる人形を欲しがっているという事だったわね。家族の代わりに人形を欲しがるといふのは、人間でもそうおかしいことではないのでしょうか？

その人形の外見？ 少し待つて。……これよ（差し出された写真には、金髪の少女が映っている。並んでいる青年は黒髪で、少女とはあまり似ていない）。

ええ。彼が嘘をついているのは気付いていたわ。注文も妙だったしね。でも、それは私には関係のないことよ。

その人形？ さあ。どこにいるのかしら。さつき言った通り。人間と区別がつかないくらいに精巧だから、どこかで生きていてもおかしくないし、死体と混じっていたって、見分けるのは難しいんじゃないかしらね。

……ただ、そうね。これは伝えておかないといけないかしら。依頼に沿うようできる限りの事はしたけれど、完全という訳にはいかなかったわ。手に入った材料の都合もあってね、定期的なメンテナンスをしない限り、自律稼働はできなくなってしまうのよ。あの人形は。そうね、発条を巻かずに十日も放っておけば、じきに動作が狂い始めるでしょうね……。

◆◆ 某所にて、不死人への事情聴取 ◆◆

……なんだ、どつかで見た顔だなと思つたらお前さんか。こんな時間にどうした。途中で道に迷わなかったか？ 私と違つて死ぬる人間なんだ、命は大事にしないとね。

白兔に会つたなら幸運だったな。きつと良いことがあるよ。

そうだ、慧音は元気にしてる？ 例の事件で思い詰めてるんじゃないかな。どうも、一度思い込むと真つ直ぐすぎるんだよね、慧音は。あんまり何でもかんでも背負い込み過ぎるのは良くないと思うよ。

……？ 私に用事か？ 珍しいな、お前が直接頼み事なんて。

ん？ ああ、これか（肘から先の無い手首を見せる）。この前ちよつとな。腕がなくなるのは久しぶりなんだが、いろいろ不自由で難儀しててさ。どうもこういう身体だと、当たり前前することに気付けなくなる。参るよね。

ああ、知つての通り私は死ぬないし、死なない身体なんだが、こんな風に変な具合に千切れたりすると、たまに元に戻らなくなるのさ。うん？ だつてそりやそうだろう。もし私が生き返る時に元の死体が残つてたなら、今頃この竹林は私と輝夜の死体の山だ。

うまい具合にリザレクションで戻らないかと思つて今日も何回か死んでみたんだけど、相変わらずなんだよな。……どこにあるんだろうな、私の腕は。

んー。そうだな、そんなに何度もあることじゃないからはつきりしたことは言えないけど、腕が封印されていたり、あと誰かに喰われてたりすると面倒だな。

いや、どうもあの蓬莱の薬つてのは忌々しいことによく出来てやがるんだ。私の死体が全部、まるごと封印されていたりすると、正しく蘇生ができないって判断されて、強制的に元の死体が灰化して消失、まったく別のところに一からリザレクションされるんだけど、こんな感じで私自身は無事で、腕だけ無いっていう状態だと、何度死んでも手はこのまんまなのさ。できれば誰かに食われてるくらいで済んでると楽なんだけどなあ。封印は勘弁願いたいね。長年不老不死やってると、余計な色気を出してくる奴らがいてき。私の肝を食べたところで、不老不死になるわけがないんだけどな。

……うん？ まだなにかあるのか？

人形？ さあ。なんのことだ？ 最近は里にも行ってないし、特にそんなものは見なかったけどな。まあ、見かけたら連絡するよ。

ああ、慧音よろしくね。

◆◆ 墓場を徘徊していたキヨンシーの発言 ◆◆

うおー！ この墓を荒らす奴はどこ誰だー！！

我らは勇敢なる戦士、宮古芳香！ この崇高な靈廟を守るキヨンシーであるー！！ 不埒な墓荒らしめ、今すぐに出ていくがいい！

何？ 墓荒らしではないというのか。では一体お前はどこの誰だー！！

（戦闘と説明にしばし時間を割く）

ふむ。なるほど。そういうことか。ならば初めから言えばいいのだ！ ここは生者の近付く場所ではないが、すぐに帰るなら構わないぞ！

む。この腕か？ そうだ、思い出したぞ！ この前から、腕が腐ってしまつて困つていたんだ。やっとせーがに直してもらえた。おかげでとても綺麗になつたぞ！ やはり毎日のゾンビの健康は柔軟体操とお肌のケアが第一だー！！

うん？ 怪しい奴か。ここには怪しい奴はいっぱい来るな。墓場に近寄るような連中は、不審者と相場が決まつている！ そういつたやつを追い払うのもキヨンシーたる私の大事な役目なのだ！ この前も猫がやつて来て墓を荒らしていたからなー！！

おー、なるほど、火車というのか！ あいつはまつたくけしからん奴だぞー！！ こつそり恐び込んで、墓を掘り返して死体を持つていくのだ。私もこの前腹が減つて倒れていたら

危うく地底まで持つていかれるところだったんだぞー！

あいつが言うには、死体と話が出来るらしいが、どうにも嘘くさいな！ ああいう、死体をおもちやにするような危険な妖怪は念入りに退治しておくといい！

そうだ、あの時も一度、埋まっていた死体を掘り返して持つて行つたが、そのあとすぐに戻つてきて元の場所に埋め戻していったな。

場所か？ 確かその辺に埋まっているはずだぞー！

そう！ 綺麗な金髪だったからな、よく覚えてる！

まったく、夜な夜な墓荒らしをする妖怪など、危なくて仕方がない奴らだ！ けしからん話だな！

……………。

……………。

……む、ところでお前たちはどこの誰だー!?

うおー！ ここは崇高なる霊廟であるぞ！ お前たちのような生者が入り込んで良い場所ではない！ さては墓荒らしだなー！ 早々に立ち去るがいい！

(キョンシーはまた攻撃を仕掛けてくる)

ああ、知ってる。例の死体がひとつ多いって話ね。

被害者の一家は三人家族。見つかった右手は四本。誰かもう一人余計に死んでいるってことになるわけだけど。今のところ、里の中から行方不明者は見つかっていない。じゃあそこで死んでいたのは一体誰だったことになるけど……腕はもう全部燃やしちゃったんだよねえ？ だってさ、霧雨の大旦那の意向でしょ？ それに、あそこの息子さんってさ……そりゃ反対できないって。まあ、あの人らにいろいろあるのは知ってるし。

酷い事件だったし、いくら捜査のためだって言っても、何日も放っておくのもどうかとは思うから、それはそれで良かったんじゃないかとは思う。その方がいいこともあるからね。……さあ。わからないな。

でもさ、ちよつと気になるんだけど。現場では、本来いなかったはずの人間が余計にもう一人死んでいたわけじゃない？ だったらさ、もつと居てもおかしくないってことにならない？ 腕も何も残さずに、丸々喰われてたって、後からじゃもう分からないだし。

そもそも、右手だけ全員分綺麗に残ってるのも、考えてみれば変な話だと思う。

え？ そういう妖怪、かあ。……どうかな。居るのかもしれないけど、あまり考えたくないな。だとするなら、人間を何人も食べて平気な顔してるやつが、里の中に入り込んでるっ

てことになる。そういうのは迷惑かな。

ほら、ただでさえ最近、人魚を捕まえようとか、そんな話も多いじゃない。あんまり人間が妖怪と近付くのは良くないと思うんだ。

……うん。まあ、ね。

あのさ、こんな時に言うのもなんだけど、私、そろそろ自警団やめようかと思つて……。え？ だつて、推薦はされたけど、それつて長屋の義理みたいなもんだし。第一向いてないつて、こういうの。……買い被らないでよ。今回だつて、役に立つてないじゃない……。

うん。え？ ……ちよ、何言つてるのいきなり。

ちよつと、困る……そういうのは。うん。……困る、から。

……。

……。

まあ、その、今すぐに、つてことじゃないけど……できれば、早いうちに、かな。考えておいて欲しい。ああ、団長にはこれから話すよ。

え？ 首？ ……ああ、この包帯？

別に、なんでもない。ちよつと、怪我しただけ。

……それだけ。

◆◆ 三途の河の死神の証言 ◆◆

いやあ、はるばるご苦労なこつた。最近の自警団は彼岸まで調査にくるのかい？ 言つちやあなんだが、ここらは生きてるうちに近付くもんじやないと思うけどねえ。水鬼のお偉いさんに知られたらただじゃ済まないよう？

ははは。しかし生憎と、あんたの財布の中身じやあ、三途の渡し賃にやちと足りない。ここであたいが話を聞こうじやないか。なあに、今度、酒でもおごつてくれりやあいさ。

そら、そろそろ魂の緒が細くなつてきてるだろ。あんたが本当に死んじまう前に用事は済ませないとねえ。映姫様に怒られちまう。

……ああ。その子の魂なら乗せたよ。忘れるもんかい。

今はもう向こうで裁判も終わつてるはずさ。いやあ、いやな事件だったねえ。まだ、腕が一本見つかつてないんだらう？ あたしもこういう仕事だけど、流石にありやあちよつといただけなかつたよ。どんな形だらうが、子供が犠牲になるつてのはやつぱり良くないもんさ。ことは言えあれだけのことをしちまつたんだ。たぶん、しばらくは輪廻には戻れないだらうけどね。だからあんたも安心して――

ん？ なんだい。どうかしたかい？

……はあ？ なんだいそりや。冗談も大概……おいおい。ちよつと待ちなよ。

あんた、それ本気で言ってるのかい？

あの一家を殺したの子だろう。禁忌の魔

んで大層な企みま

して、巫女に人妖と  
そこをどうにかして

間として葬ったって話じゃなかったの

いや、そりやおおかしいだろう。どう

是非曲直庁、閻魔直属の死神に対してそ

と悪いことがある。

——それに第一あの子の髪は

【奥付

月17日 東方想七日4

uhazakadojin.com

様の「東方proj

著者

銅

作です

あかがね

こなろうな

こ人